

ちば通研だより No.517

千葉県手話通訳問題研究会 (発行責任者) 米田 市子 (編集者) 渡辺 正夫
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<https://syuwa-chiba.la.cocacn.jp>

2026年度 ちば通研講座Ⅰ ～手話通訳者の役割と今後の展望を語る～

いよいよ2026年度のスタートです！

毎年、ちば通研の定期総会後に講師を招聘してちば通研講座を開催しております。今年も、皆さまから要望が多かった江原氏をお招きして下記のとおり開催します。詳しくは、講座のチラシを参照してください。きっとヒントがもらえると思います。2026年度の会費を早めにお振込みいただき、お申し込みください。一般の方もお誘いの上、是非ご一緒にご参加ください。お待ちしております。

<ちば通研講座Ⅰ>

日時：2026年4月19日(日) 13:30～15:30

会場：千葉聴覚障害者センター3階多目的ホール(予定) + オンライン

テーマ：「手話通訳者としての役割と今後の展望」

講師：江原 こう平 氏(全通研事務局付事務局員)

参加費：2026年度会員・きこえない人は無料、一般は2,000円(口座振込で)

その他：会場+ハイブリッドで開催します。

※当日会費を払ってくださった方も会員扱いとします。この機会に是非会員になりましょう！

3月24日時点でのちば通研の会員数は335人
(読者会員会員数は12人)
2026年度の目標数は350人です
数はカ！みんなで会員を増やしましょう～



しゅわりん

耳の日まつり 報告

2026年3月8日(日)、館山市の南総文化ホールにて、「第45回耳の日まつり」が、開催されました。今年は、「千葉県聴覚障害者協会 創立80周年記念大会」でもあり、多くの皆様が集う大会となりました。昨年11月、「東京2025デフリンピック」が開催され、千葉県ゆかりの選手が、千葉県知事賞を受賞されました。当日もデフリンピックのポロシャツを着て参加されている方、ピンバッジなどのグッズを付けている方も多く見られ、今後もデフスポーツは、デフリンピックの思い出とともに、積み重ねられていくことと思いました。

ちば通研は、書籍、焼きのり、のりの佃煮、缶バッジ、手芸作品などの販売を行いました。今回も、缶バッジは売れ行き好調でした。各ブース、壁に添って設営されており、お互いの顔が見えるようになっていて良かったです。昨年に引き続き医療班・千葉県薬剤師会の「ベジスコアチェック」は大盛況でした。健康は大切ですね。

第2部アトラクションの「デフ・パペットシアター・ひとみ」の皆さんが演じる人形劇は、思わず引き込まれる迫力がありました。

2027年度は、「千葉聴覚障害者センター」で開催予定です。実行委員会の皆様、ありがとうございました、1日お疲れ様でした。

(組織部 鶴澤 恵子)

耳の日まつりに参加して

流山から参加しました。パペットを見るならと流山の4人で前の席を取り、後援会の干し芋、干ししいたけ、あんぱん2種類購入し、書籍やお茶も買いました。もうこれだけで満足してしまいそうでした。いよいよ開演。デフリンピック、キャラバンカーの映像を見ました。あの頃の感動が蘇ってきました。ミニ講演は「手話施策推進法について」内閣府の方のお話。この方なんと祝辞は全部手話でお話してくださいました。手話検定2級をお持ちでした。

第2部はお待ちかねのパペットシアター・ひとみによる「河の童」。朝早かったので、睡魔と闘いながら鑑賞しました。そして福引。やっぱり当たりませんでした(泣)遠い道のりでしたが、普段は会えない方、ちょくちょく顔を拝見する方などと交流できて、楽しかったです！

(流山班 田中 昌代)

会場のロビーでは、聞こえないお姉さま方が、女子高生のように相好を崩して、快活にお喋りを楽しんでいました。その様子から、耳の日祭りが、県内の聞こえない者同士が久々に出会い、心を開いて会話を楽しめる貴重な機会になっていることを実感しました。

一方、式典では、内閣府の聴者F氏が、数分間の祝辞を全て手話表現と音声日本語で同時に表現しました。「この国家公務員、凄いなあ」と驚くとともに、手話検定2級の実力を全て出し切ってそれ以上に表現しようというF氏の心意気に頭が下がりました。

館山から見る早朝の富士はとても美しく、駅前の鯛汁定食990円は「朝からこんな贅沢をしても良いのだろうか」と罪悪感を生じさせる味でした。

(成田班 水沼 功)

千葉県薬剤師会との取り組みについて

3月8日(日)、館山市南総文化ホールにて第45回耳の日まつりが開催されました。

今回も医療班コーナーは千葉県薬剤師会との共催となり、医療班7人、千葉県薬剤師会4人で運営しました。ベジチェック・鉄分チェックや水分測定などの簡易栄養バランス測定、血圧測定などの健康相談、握力などの筋力測定などを提供しました。140人を超える方が足を運んでくださり、一時は順番待ちの列ができるほどでした。

特に、ベジチェックや鉄分チェックが人気でした。昨今の健康意識の高まりとともに、参加者皆様の関心の高さを実感しました。(医療班 佐川 ちとせ)



南総地区講座 報告

2026年3月1日(日)、9時30分~11時40分まで、君津市生涯学習交流センターにて2025年度南総地区講座が開催されました。

今回の南総地区講座は学生時代からボランティア活動に取り組み、現在は災害対策コーディネーターとしての活動も行っている三澤輝之氏を講師に迎え「誰も取り残さない避難所とは？」とのテーマで防災について学習しました。

前半は講師がボランティアとして活動した能登半島地震での被災地支援活動報告。ボランティア活動をするということは、現地に向かう交通、食事、装備、宿泊等の準備や費用など自己完結するということが、被災地では支援活動だけではなく、人や物との交流が生まれ、その後も続いているということなど実際に活動した人しかわからないお話を聞くことができました。後半はグループに分かれ「災害図上訓練(DIG)」を用いた模擬避難訓練を行いました。参加の聞こえない人達と一緒に、災害時の情報をどのように得るか、聞こえない人が建物の中に取り残された時、どのように伝え合うかなど活発な意見交換ができました。実際はとても短い時間で判断し行動しなければなりません。普段から意識し訓練を継続していくことの大切さを改めて考える良い一日となりました。(かずさ班 粉 純子)

南総地区講座に参加して

講師がとても若い方でびっくり!! しかしその経験は深くご自身の体験からのお話は伝わってくるものがたくさんありました。

まず能登半島地震の災害ボランティア活動を聞きました。遠いところの地震ですが「半島」という環境が千葉県と同じとは・・・能登での道路寸断で救援物資が届かないという状況が千葉でも起こることが考えられる、と聞いた時は恐ろしくなりました。

私の家は半島の下、しかも海が近い。備蓄の見直しをしようと思いました。実際に地図を使った研修ではいろいろな考えを聞くことができました。また、聞こえない方からの貴重なご意見もいただきました。自分の地域でも学習した事を伝える機会を持ちたいと思っています。ありがとうございました。(わかしお班 久我 和恵)

「健康で毎日を暮らそう ともこが語る！」 Vol.1

「自己紹介」

医療班の高田です。会員の皆様には耳の日まつりの健康相談コーナーなどでお会いしているかもしれません。

これから1年間、皆様に健康についてお伝えする機会をいただきました。

全国手話通訳問題研究会で健康対策の担当部員として健康対策普及員養成、雇用された手話通訳者の動態調査や2025年度にも実施した手話通訳者実態調査の担当をしているので機会をいただきましたようです。

私は千葉県生まれの千葉県育ちですので「井の中の蛙大海を知らず」と言われたいように、全通研の全国集会参加や職場では県外出張の希望ばかりしていました。今では、手話関係や看護学校時代の友人が全国にいます。

手話との出会いは高校卒業後の進路に看護学校を選んだところ、福祉の道に進む予定の友人から「看護師なら手話を勉強しようよ」と千葉県主催の手話講習会に誘われたことです。

毎週土曜日にホームルームをさぼって半年間、木更津市から市原まで通いました。講師は市原の寅さんこと田中収さんと川根光男さんでした。そして手話通訳者は佐藤文子さんと今も大活躍の田村貴子さんの大先輩お二人でした。

交付を「こうつけ」と読んで「今の高校生は！漢字も読めない」とあきれられた思い出が強く残っています。今考えれ

ば高校生が行政用語の交付（こうふ）を読めなくてもおかしくないと思うのですが・・・その頃はすごく恥ずかしかったです。



約20年前の
川根光男さんと私

9月から3月までの半年で大した手話は身につかなかったと思いますが、最終日は千葉市で手話サークルとの交流会があり、進学後は手話サークルに入りたいと思い、入学後に手話サークル「いちよの会」に入会しました。

交流会では大好きな川根薫さんの夫になる予定の川根紀夫さんにお会いしました。

結婚後に川根家の近くに住み、3人のお子さんたちと私の息子が保育園から中学校まで同じ学校で過ごすことになるとは思いもしませんでした。

薫さんは手話通訳現場だけではなく、通訳者のコーディネートや愚痴の聞き役、聴覚障害者の生活を支え、母として妻として、多忙な毎日を送る中で頸肩腕障害を悪化させ、長期の入院や療養生活を強いられました。頸肩腕障害が手話通訳者の職業病として認知され始めたころのことです。

(高田 智子)

次回に続く⇒

「福祉の現場を経験して しろろが語る！」番外編（おまけ）

居住地特例と相談事業の監査権の隙間

障害者のグループホーム(以下 GH と略す)が国の制度となったのは平成元年度。以後平成 14 年度まで運営主体が社福法人に限られたため「GH は入所施設の周辺に集中し施設から地域移行するための存在という印象でした。「社会資源が地域に偏在することによりその所在地市町村に援護の実施責任が集中するのは不公平」との考え方から「社会資源が地域に均等に整うまでの経過措置」として国が考案したのが「居住地特例」。本人が市町村を越え施設やホームに入っても、引き続き入居前の(出身世帯のある)市町村が援護の実施責任を負う」という特例です。施設や GH の所在地市町村への負担集中を避けるほか「最初の市町村が本人の状況を一番よく把握している」というのもその論拠のひとつでした。

曖昧化した計画相談事業のチェック

障害福祉サービス事業所の事務監査は当初より県の責任で行われてきました(県庁の担当課に監査担当部署がありました。その後出先機関に事務が移譲され現在は「保健所」(健康福祉センター)の業務)。がその後「計画相談の監査権限」は県からさらに市町村に委譲されました。その結果現場でどんな問題が起きているか？当然ながら市町村は計画相談の監査対象を自分の管轄の人だけに限定し、経緯の分らない「他市町村からの入居者」については関係書類を見ません。つまりこの部分に関しては「監査の目が届かず不正を暴けない」構造です。これも「制度のスキ間」なのですが、仮に私たちのような関係者がその不正の実態を出身市町村に通報したら「事業所指定の取消し」にも発展しかねない大問題です。現場を知らない人たちが机上で制度をいじると、こうしたひずみを生じ結局しわ寄せは当事者が被る結果になってしまうのです。↗

報酬単価の低さを口実に相談事業所は好き放題

計画相談は約一週間余りの初任研を受講すれば実務に就ける仕組みです(このほか経験者の現任研修もあり現任受講済者が複数人配置されると加算あり)。介護保険のケアマネが毎月モニタリングで確実に月1万円は稼げるのに比べ障害分野では、従来「モニタリングは原則6ヶ月に一度」とされてきました。これだと(1回1万数千円の報酬単価につき)事業所に入る月額収入は継続案件1ケース当り $12000 \text{円} \div 6 \text{ヶ月} = 2000 \text{円}$ の計算。つまり一人の相談員が100件は担当しないと一人分の人件費にならない(私はきちんと業務を果たすには一人40件が限度と考えます)。「単独事業として採算が成り立たない事業」と指摘され続けてきたものの抜本的改善の動きなし相当「困難ケース」と市に言い張って毎月モニタリング要と認めさせない限り収益は増えない。すると事業所はどうするかというと①楽しんで面接できる人を囲い込む(施設通入所生の計画総取り)②実際には訪問せず報酬請求する等、悪事に走るわけです。私のホームに暮らす方の担当相談支援専門員は何年も来訪せず、本人も私たちも相談員の顔さえ知りませんでした(事業所名は言いませんが、書面上は来たことにして報酬請求しており完全な不正請求)。その後事業所を変えましたが計画相談事業所がいかにもいい加減で玉石混淆であるか私は知っています。相談支援は障害に関係なくサービスを利用する人全員が利用できる基幹サービスです。「障害があることによりその人が感じる生活のしづらさを軽減して生きる希望と目標を共に灯す実践が相談支援である」と考えます。相談支援専門員は入口段階で個の課題を分析整理し支援チーム全体のものにし総合調整を担う人。計画相談が義務化され20年目を迎えた現在、当たり外れの落差が激しい「計画相談事業所選び」にはみな様くれぐれも最新の注意を払うようにして下さい。

【おしまい。ありがとうございました 黒岩史郎】



医療班コーナー

胆石症 手術しました（看護師）二人の証言

胆石症は胆道の中で、澱んだ胆汁が石のような固まり(結石:けっせき)を形成し、時に痛みや発熱などの様々な症状を引き起こす病態の総称です。結石の発生する場所によって胆のう結石、総胆管結石、肝内結石と呼ばれ、それぞれで結石を構成する成分も異なり、症状や治療法、重症度も違います。

Aさんの証言

10年位前から健診で胆石を指摘され、数年前には激痛で救急受診を3回しました。しかし、その後は症状もなく、いつもの生活を続けていました。昨年胆のうに関するトラブルで多くの方が手術し、また身近な人も胆のう摘出術を受けたと聞きました。改めて消化器内科を受診し、胆石が直径5cmに育っていたため、手術を決意。手術予定は11月中旬と説明されました。

しかし、待てど暮らせど連絡がなく、12月中旬になって問い合わせたところ「忘れていました」と…。さらに12月下旬、その病院から「12月31日入院」とLINEがあり、1月1日に手術するの!?!と不思議に思いましたが、病院専用アプリの自動設定が原因でした。その後は手術当日に手術室を間違えられウロウロする場面もありましたが、1月4日入院、5日手術。病院関係者が「初めて見た」とびっくりするほど大きい石を摘出しました。8日に無事退院。

Bさんの証言

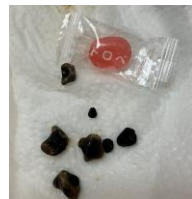
20数年前に検診で胆石を指摘され、当時は元気なうちに最先端の腹腔鏡手術を受けようと思っていました。症状がなく、夜勤のない職業にかわり、大きな変化もないため年1回の検診を受けていました。ところが、土曜日の宴会中に嘔吐と腹痛があり、次の日には治まったため、疲れかなと軽く考えていました。月曜日、腹部の違和感と濃い尿の色が気になり、仕事帰りに受診しました。

痛みも無く、医師も最初は念のための検査と言って採血をしたところ、肝機能の数値が異常すぎて、翌日に再検査とエコーを指示された。結果、緊急対応が必要と紹介入院となりましたが、痛みはないため自身で交通機関を利用して移動しました。胆石を取り、肝膿瘍を併発して療養休暇は1ヶ月必要で、その後に改めて胆のう摘出術(5日間入院)を受けました。

胆石は痛いと感じている方も多いと思いますが、サイレントストーン(無症状胆のう結石)とも言われます。定期的な検診と医師への相談は忘れずに!!



Aさんの石



Bさんの石

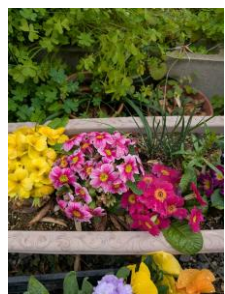
～健康対策班～

寒さが和らいできた今日この頃です。新しい春の芽吹き、桜の花も咲いてきました。最近、「自分を知る」というテーマの研修を受けました。自分の内面に入り込み、自分自身との対話を通して、自分のことをよく把握する作業です。

最近一週間の生活スタイルを振り返って円グラフにします。手話通訳の私、家族の中の私、一人の生活者の私などなどを円グラフで表します。皆さんも円グラフにして、今の自分はどうか当てはめてみてください。

身体健康診断はありますが、心の定期健診方法はさまざまですね。楽しいことが増えてくる生活が見えるとよいですね。

ちょっと手を休め、春のお花や植物を見に出かけたら良いですね！！



(写真提供 川根 薫)(文 健康対策班長 平野 百合子)

労働フォーラム報告

2026年3月20日(金・祝) 千葉聴覚障害者センター3階多目的ホールにて2025年度労働フォーラムが開催されました。(千葉県聴覚障害者協会 福祉労働委員会主催、千葉県手話通訳問題研究会 労働班共催)

聞こえる人、聞こえない人約30人が参加、ちば通研からは労働班のメンバーだけでなく労働問題に関心のある会員の方々が多く参加されていました。

今回のフォーラムの中心は、千葉障害者就業支援キャリアセンター長 藤尾健二氏を講師に迎え「障害者雇用の今後と課題について」をテーマにした講演でした。障害者雇用を取り巻く法律や制度が変化していく中で、課題となるのは更なる障害理解であり、支援の第一歩は「相手を知る事」。障害のある人への必要なサポートは一人一人違って、ひとまとめに「できない」ではなく、やったことがない、求められたことがない等の理由で「できていない」という場合もあり、合理的配慮も含めた対応で解決できることもある。本人に対する配慮(理解)は結果として職場(企業)としての利益につながるというお話には、なるほど・・と思い、また課題解決には支援機関による「企業への支援」も必要なのだと改めて感じました。

講演終了後には、福祉労働委員長より千葉労働局へ提出した要望書についての報告もあり、まだまだ取り組む課題はたくさんあるな、と実感した一日でした。

(労働班長 粉 純子)

事務局からのお願い

ちば通研では2026年度の会費の受付を始めています。できるだけゆうちょ銀行での振込をお願いします。

地域班で取りまとめて振り込んでくださってもOKです。その時は必ず振込の全員のお名前を記載していただくようお願いします。

新規会員さんへの呼びかけもお願いします。ホームページの「入会案内」をクリックして「パンフレットのダウンロード」から、案内チラシをご活用ください。新規会員の方は「会員登録フォーム」を必ず送ってください。

新年度のスタートを機会に一緒に活動し学びあえる新しい仲間を増やしましょう。2026年度の会員目標数は350人です。

会員は、全通研本部から年4回の機関誌「手話通訳問題研究」が届きます。サマーフォーラムをはじめ各種の学習会に参加できます。

ちば通研からは毎月「ちば通研だより」をお届けしています。講座や各専門班による学習会に参加できます。

きこえない人や手話に関する情報がほしい人、きこえない人といっしょに活動してみたい人など多くの人に会員になっていただき一緒に活動していきたいと考えております。

継続する会員にお願いです。会費の納入は5月までにお願いします。それを過ぎると、ちば通研だより6月号からの配布が止まり、「手話通訳問題研究」の機関誌も届かなくなります。早めの会費納入をお願いします。

また、郵送料金、用紙代の値上がりを考えデータ配信への切り替えをお願いしています。データ配信者は、郵送料や用紙代を減らすための協力をしてもらうことを目的にしています。ホームページの会員専用ページ「広報」においてちば通研だよりをカラーで見ることができるようになります。協力していただける人は、syuwa@nifty.comまで。
(事務局長 折原 由紀子)

班員大募集！

ちば通研には、研究部の中に専門班として「医療班」「健康対策班」「楽しく未来社会学習班(TMG)」「保育・子育て支援班」「ろう教育班」「労働班」があります。

専門班は定期的に学習会をオンラインや対面にて開催しています。会員であれば誰でも参加できます。それぞれの班員を募集しています。

(専門班の学習会の開催日は、ちば通研のホームページをご覧ください)

また、「N-Action ちば」、そして「ICT ちば」のチームがあります。若い人や情報発信などに興味関心があり、その技術のある方を募集しております。

最後に広報部では Word ができる編集員とホームページの作成やその技術のある方を募集しています。

皆さまのお力をどうぞお貸してください。よろしく申し上げます。

連絡先:ちば通研事務所(syuwa@nifty.com)



私のイチオシ

by 海匠地域班

入会と同時に労働班にお世話になり、早いもので一年が経とうとしています。この一年、zoomでの学習会を通して、ハローワーク等で聞こえない方の相談に乗ることの難しさや、その環境を整える大切さを学ばせていただいています。

画面越しに何う皆さんの実践報告はどれも重みがあり、真剣に課題に向き合っている姿にいつも圧倒されています。私自身は障害者担当ではないため、直接相談を受けるような経験ありませんが、今は皆さんの貴重なお話を伺って「なるほど」と驚いたり、感銘を受けたりしています。

正直、まだ自分に何ができるのか分からず、ついていくのに精一杯なところもありますが、まずは学習会を通して活動への理解を深めていければと思っています。マイペースな私ですが、これからもどうぞよろしく願いいたします。

ペンネーム:Milkyway

私のイチオシは、原田マハさんの『今日は、お日柄もよく』です。原田マハさんの作品は何冊か読んでいますが、本作も特に心に残る一冊です。

主人公がスピーチライターとして成長していく過程の中で、言葉の持つ豊かさや力が人生を動かす瞬間が丁寧に描かれています。相手の思いを心に届く言葉へと選び抜いていく場面は、とても印象的でした。

言葉は人の心を支え、勇気を与える大きな力を持っているのだと改めて感じさせられます。「伝える」とは何か——それは技術だけでなく、誠実さがあってこそ成り立つものだと気づかされました。

読み終えた後、自分の言葉をより大切にしたいくなる、そんな力を持った一冊です。 YK



わたしのイチオシ ラジオ体操

日頃の運動不足解消のためウォーキングをしています。

仕事帰りに公園を30分。でも雨が降ると中止、風が吹いたら中止、そして時には中止する理由を探したりしてなかなか続きません。そこで、NHK 朝の体操を録画して隙間時間に体を動かします。これなら天候に関係なくいつでも出来ちゃいます。ラジオ体操第2が終わる頃には汗ばんできます。そして何より達成感もあるので健康とストレス解消のためにおすすめです。

体を反らしたり手足を曲げたり子供のころ簡単に出来ていたのに、今はひとつひとつの動作がとても大変です。ある日せっせとラジオ体操！時刻は0時過ぎ…はたしてこれは健康に良いのでしょうか？

まあ、頑張りましょう。(F♡K)

地域班通信

船橋班：紙版の新聞の契約が終わるタイミングで、電子版新聞に切り替えました。外でも読めるし、面倒な片付けからも解放されると思ったのですが、意外と読まず…。スマホは文字を大きくでき老眼に優しいのに、目と脳は疲れてしまう。新聞紙は災害時の万能アイテムでもあるので、紙版に戻ろうか迷っています。(YM)

富里班：1月に私の尊敬している上司が57年間の勤務をもって退職されました。生涯現役と常に話しておられました。出勤するとまず、神棚に社員の健康と安全第一を祈願することから始まり、その姿は今でも焼き付いています。寂しさはまだ継続中ですが、その上司の気持ちを引き継ぎたいと思う日々です。「今日も皆様ご安全に」(Y)

流山班：来年度から国リハの手話通訳学科に通うことにしました。去年の6月にふと思立って決断まで3日、そこから受験申し込み、受験、合格発表、仕事の引き継ぎ、退職まで、あっという間の出来事でした。我ながらびっくりしていますが、とにかく2年間の手話漬け生活を楽しみたいと思います。(なな)

かずさ班：こちら「かずさ班」です。班活動は毎月1回ですが、3月は地区講座があり2回開催でした。地区講座では、我が班最年少の三澤さんを講師に「防災」をテーマに講師の経験に触れ、参加型の講座でとても良い時間でした。わざわざ遠くから参加いただいた方々はじめ皆さんご協力ありがとうございました。(のりまき)

わかしお班：4月入学・進学・新社会人として新年度をむかえますね！私は、1月から3月にかけて、身体のメンテナンス（腹部手術・両白内障手術）をして、心も身体もリフレッシュな新年度をむかえます。これからも、仕事にサークル活動に頑張っていきたいと思います。(U Y)

白井班：私には結婚記念日と誕生日に行くレストランがあります。そこの窓際の席は天上からガラス張りになっていて、とても解放感があります。メイン料理も素晴らしいのですが、何と言っても次々と運ばれてくる焼きたてのパンが最高です。小さめなので次から次とパクパク食べてしまいます。夫婦のささやかな楽しみです。



市原班：街路樹や公園の木々が梅木苔でひん死の状態です。温暖化の影響でしょう。私も何かしなければ、と祖父母の暮らし方に習い節水に努めています。台所の水は細め、ふろ水は洗濯に使い、洗車は流水ではなくバケツの水で。でも使用料に変化は見られません。60%節水！ トイレリフォームの宣伝に心惹かれるこの頃です。

習志野班：お天気に恵まれた3月8日、館山の耳の日まつりに行ってきました。お昼を食べてからの午後のアトラクションは、デフ・パペットシアターの「河の童（かわのわっぱ）」でした。大人の上半身もある大きな人形を使っていて、とても迫力がありました。セリフがないのですがストーリーはよくわかりました。でも、河童は元気になったんですね？

鎌ヶ谷班：最近、市川動植物園のパンチ君が話題になっていますよね。介護中の90歳になる母もパンチ君に会いたがっていましたが、現地まで行くのが難しいので、娘の私が頑張ってパンチ君に会いに行ってきました。平日の開園時に行っても長蛇の列。40分並んでやっと入れました。中でも猿山は凄い人で見るとにも一苦労。やっと見られたパンチ君はオラン母さんに甘えていました。(MI)

六つ星班：3月、耳の日まつりに行ってきました。場所は、館山。ちょっと遠いな…とは思いましたが、仲間と一緒に行く道中は話題が絶えず、あっという間に到着。現地に着いたら懐かしい面々。お土産たくさん買って、海の幸をいただいて、ちょっとした旅行気分も味わえて、とても満足な1日を過ごす事が出来ました。

松戸班：3月12日参加者10名。一年の振り返りとまとめ。はじめに「国連・障害者権利委員会におけるアクセシビリティの確保を求める声明」の公表映像を視聴。情報保障がついた田門氏の活躍に期待が高まりました。松戸班の学習会のときに自分が協力できる分担の工夫や年間回数の見直しの提案など有意義な会でした。私にとって学びや交流の場になっています。(MY)

八千代班：新たなマイブームはローズヒップティ。ちょっと酸っぱいけど渋くない味が気に入っている。美味しいだけではなく、美肌・免疫力アップなどの効果も期待できるらしい。抽出後の茶葉も食べるのがお勧めなんですって。カフェインレスなのでいつでも飲める。寒さが残るこの季節、美味しいお菓子といっしょに…… それはいかがなものでしょうか!?

印西班：この春、2歳の大型犬を家族として迎えました。先代のわんこが亡くなって4年、面影を追い求め、もう一度犬との暮らしを夢見ても、年齢を考えると無理かなと諦めかけていましたが、夢が叶いました。大型犬なのに、気が弱くて寂しがり屋で甘えん坊です。家に来て1ヶ月。頼りになる飼い主目指して頑張っています。



海匝地域班：先日、西海匝ろう協会主催による講演会&交流会に参加しました。講師は株式会社方角の方山れいこ氏。デフリンピックの卓球会場に設置されていたモニターに映し出されていた「ミルオト」をデザインした方です。聴覚障害を持つ方々にも音を感じてもらうことができたら…と、障害と社会を繋ぐ方法論を模索中とのこと。「エキマトペ」など、音を目で感じる技術があちこちに広まることを期待しています！

市川班：今、市川市と言えば…市川動植物園のパンチ君ですね。テレビでも動画や海外でも。抱いているぬいぐるみも売れているとか。市川市が有名になってうれしいやらなにやら。交通の便があまりよくないのですが、夏には蛍鑑賞会があります。ぜひお立ち寄りください。

八街班：大手某ショッピングセンターに買い物に行ったらなんと！手話をモチーフにしたTシャツが！！デザインもおしゃれなんです。指文字Tシャツを即買いしました。これから暖かくなるので大活躍しそうです。小さめサイズ(Sサイズ)であれば我が子と親子コーデも悪くないかな。手話が一層身近に感じるかもしれません。

成田班：小学校の日本語教室で、外国ルーツのこどもたちに、絵本の読み聞かせや素話を年に4回しています。近所に住むアフガニスタンのこどもたちがふだんも声をかけてくれるようになりうれしいです。数年前は日本にいてもアフガンの子は中村哲さんを知っていましたが、亡くなられて6年経ち、難しくなりました。

千葉市班：新年度。進級も進学もない、代わり映えしない毎日の大人ですが、文房具を新しくしてみようかな？昭和にはなかった可愛くて、キラキラで、実用的な文房具たち。「何に使うの？」『え～便利！』そんな文房具をカバンに忍ばせていたら、マンネリ気味の仕事もモチベーションアップできるかな！！

气象台には「要配慮者対策係」が配置されています

気象庁では、これまで主に障害者、高齢者及び外国人関係の主体と連携した取組を進めています。

- ・自治体の要配慮者所管部局や社会福祉協議会、障害者団体等との意見交換
- ・自治体の要配慮者所管部局や社会福祉協議会、障害者団体等への防災気象情報の利用促進
- ・津波フラッグ導入や避難訓練等の自治体の津波防災の取組への支援
- ・要配慮者避難関連の計画（個別避難計画、避難確保計画）策定への支援

皆さんがご存知なのは津波フラッグだと思います。それだけでなく、要配慮者避難関連の計画策定への支援を自治体と气象台が連携して実施しているのです。銚子气象台にも「要配慮者対策係」が位置づけられています。

※聴覚障害者災害救援中央本部の中央交渉で知りました。（広報部長 渡辺 正夫）

役員短報

日時：3月22日（日） 9：00-10：40

会場：オンライン

参加者：19人

<主な議題>

○三役

- ・議案書、会計関係報告を最終確認
議案書の印刷 3月23日（月）
会計関係の印刷 3月27日（金）
- ・2026年度代議員選出 4人を役員会にて承認。
- ・2026年度本部議案書を今回会員全員に配布。2027年度は郵送者のみ配布。
- ・全通研新刊本「よりよい対人援助をめざして」 税込1,100円
近々、販売予定。ちば通研から購入してください。

○広報部

- ・4月号 14ページとなる。
- ・5月号掲載記事の確認
総会とちば通研講座Ⅰの感想について
会場にて依頼する。

○組織部

- ・会員拡大 335人（3月24日現在）
- ・総会について
やむを得ず総会を欠席する場合と視聴で参加する人は、必ず、委任状を4月15日（水）までに出してください。
集団視聴会場は、8会場にて実施。
- ・ちば通研講座Ⅰ 4月19日（日）
総会終了後に開催。
講師：江原こう平氏
- ・データ配信者の名称変更について
ちば通研だよりを郵送で希望するかしないかの判断を求めているので、データ配信を変更する必要があるのではありませんか。次回役員会にて検討する。
- ・地域班結成に向けての支援について
イベントの会場を結成するところの地域で開催するなど工夫を凝らしていく。

<部・班の報告>

○三役から

- ・災害時緊急時における手話通訳派遣再構築検討委員会を開催。近く報告書を作成し発表する予定。

○組織部

- ・南総地区講座 3月1日（日）に開催。
30人の参加あり。

○N-Action ちば

- ・新規会員の中で3人増える予定。

○医療班

- ・3月の耳の日まつりで千葉県薬剤師会といっしょに健康相談を実施。

○関東手話通訳問題研究会

- ・次世代活動委員に係るブロック推薦委員についての文書が全通研本部から関東ブロック長宛に届きました。

○事務局

- ・予算及び決算書を作成した。
決算については3月15日に監査を実施。
予算案については決算をもとに作成して役員会に提示した。
- ・ホームページの契約を月払いから年払いに4月から変更した。
- ・Zoomの契約を新たな業者と結んだ。これまでの業者は契約できなかったため。
- ・缶バッジのイラストをイベントに応じて作成している。好評につき、今後も継続して販売していく。

今後の予定

○4月4日（土） 組織部会議

○4月5日（日） 役員会

○4月18日（土） 組織部会議

○4月19日（日） 定期総会

ちば通研講座Ⅰ

○4月26日（日） N-Action ちば学習会

医療班学習会

関東支部代表者連絡会議

代議員会ブロック別会議

○4月28日（火） 広報部会議

○5月1日（金） サポーターズ印刷日

お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス
アドレスは以下のとおりです。

<https://syuwa-chiba.la.cococan.jp>

QRコードでホームページに
アクセスできます。

会員専用ページは
パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail: syuwa@nifty.com

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本名
もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は4月15日(水)です。

E-Mail: c-koho@c2ken.sakura.ne.jp

FAX: 043-247-1201(早朝・深夜は不可)

会費の納入のお願い

2026年度の会費納入をお願いします。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は以下
のとおりです。なお、申し訳ありませんが振込手
数料はご負担ください。複数人まとめての納入は
全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円(聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号: 00120-4-708239

加入者名: 千葉県手話通訳問題研究会

※ゆうちょダイレクトで振込の場合は、月5回まで
無料です。

けいわん 110 番

＜医療的な相談窓口＞

滋賀医科大学社会医学講座(衛生学)

TEL: 077-548-2187

FAX: 077-548-2189

＜仲間を守る取組みに関する相談窓口＞

FAX: 057-451-3281

*何かありましたら、いつでも、ちば通研健
康対策班に、ご相談ください。

FAX: 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練
をしています。最近、災害はいつ起きてもお
かしくない状況です。そのため、会員の安否確
認をよりスムーズにするため、専用のフォーム
を開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。



<https://forms.office.com/r/5bav1TCt53>

あ と が き

この時期各市班では、役割交代や今年
度のさまざまな取り組みの話合いが持
たれた事と思います。私自身はこの1年
間を振り返り「ちば通研だより」の編集
に携わった事を大変貴重な体験をさせて
いただいたと思っております。校正等ま
だまだ覚えることがあり、一人前には程
遠いですが、皆様方からの協力のもと2
年生として気持ちを新たに活動したいと
思います。(IT)

新年度と言えば「役員決め」と出てくる
この言葉。子ども達が小さいときは沈黙に
耐えられずに挙手。今は順番？家庭環境？
諸々の理由もあって回ってくる役員。今年
は厄(役)年？と言うくらい何役も回って
きてしまいました。きっと「わたしも同
じ！」って共感している人がいると思いま
す。貧乏くじを引いたと思わずに貴重な経
験ができると切り替えて頑張ります。(S)